

I 調査の実施状況

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日

- 小学校調査
 - ア 教科に関する調査：令和7年4月17日（木）
 - イ 児童質問調査：令和7年4月18日（金）～30日（水） 期間実施
- 中学校調査
 - ア 教科に関する調査：【国語・数学】 令和7年4月17日（木）
【理科】 令和7年4月14日（月）～17日（木） 期間実施
 - イ 生徒質問調査：令和7年4月14日（月）～17日（木） 期間実施

(3) 受検者数・受検校数・実施教科等

※ 数値は、調査日に実施した公立学校数及び公立学校児童生徒数（義務教育学校を含む。）

	県受検者数（受検校数）	全国受検者数（受検校数）	実施教科等
小学校第6学年	14,684人（356校）	936,576人（18,269校）	国語・算数・理科・質問調査
中学校第3学年	14,188人（155校）	871,097人（9,272校）	国語・数学・理科・質問調査

※ 政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について、財源や人事、組織に関する権限を有し、それに基づいて、岡山市の実態を踏まえた目標や指標を設定し、独自の教育施策を推進しています。

ここでは、県民の皆様にも、岡山県全体の教育の状況をお知らせするため、岡山市における結果も含んだ数値を公表しています。

※ 実施教科等について、小学校の国語・算数・理科と中学校の国語・数学は、PBT（Paper-based testing:冊子を用いた筆記方式の調査）、小学校の児童質問調査と中学校の理科・生徒質問調査はCBT（Computer-based testing:コンピュータ使用型調査）で実施しています。

2 PBTで実施する教科に関する調査の結果

※ 中学校理科は後述参照

(1) 小学校

《平均正答率（％）》

		国語	算数	理科	国算合計	差 ※1
R7	岡山県	67	56	57	123	-2
	全国	66.8	58.0	57.1	125	

(2) 中学校

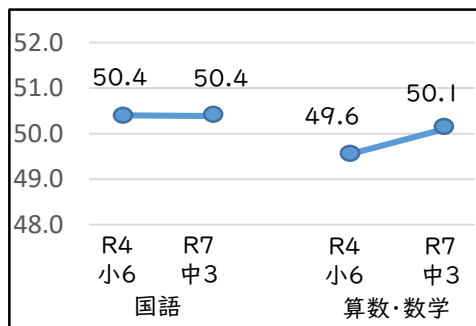
《平均正答率（％）》

		国語	数学	合計	差 ※1
R7	岡山県	55	48	103	0
	全国	54.3	48.3	103	

※1 全国の合計の小数第1位を四捨五入した値と県の合計との差を算出

(3) 同一集団の標準スコア※2の推移

※2 標準スコアとは、全国の平均正答率を50としたときの換算値



○小学校の国語及び中学校の国語の平均正答率は、全国より高い。

▲小学校の算数及び中学校の数学の平均正答率は、全国より低い。

3 児童生徒質問調査の結果

※ 肯定的回答割合は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合を示す。
※ 各質問項目は、質問調査の質問文をそのまま用いている。

(1) 夢育

- ① 将来の夢や目標を持っている（夢・目標）
- ② 自分には、よいところがあると思う（自己肯定感）

《①「当てはまる」と回答した割合、②肯定的回答割合〔単位：％〕》

		小 6		中 3	
		夢・目標	自己肯定感	夢・目標	自己肯定感
R 7	岡山県	59.5	87.3	36.5	87.4
	全国	60.7	86.9	35.5	86.2

○小学校及び中学校ともに「自己肯定感」の肯定的回答割合は、全国より高い。
▲小学校の「夢・目標」の「当てはまる」と回答した割合は、全国より低い。

(2) 学ぶ意義の実感

- ③ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（国語）
- ④ 算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（算数/数学）

《③・④肯定的回答割合〔単位：％〕》

		小 6		中 3	
		国語	算数	国語	数学
R 7	岡山県	90.3	91.7	88.5	76.7
	全国	90.4	91.6	88.3	75.2

○小学校の「国語」以外の肯定的回答割合は、全国より高い。

(3) 学びに向かう力

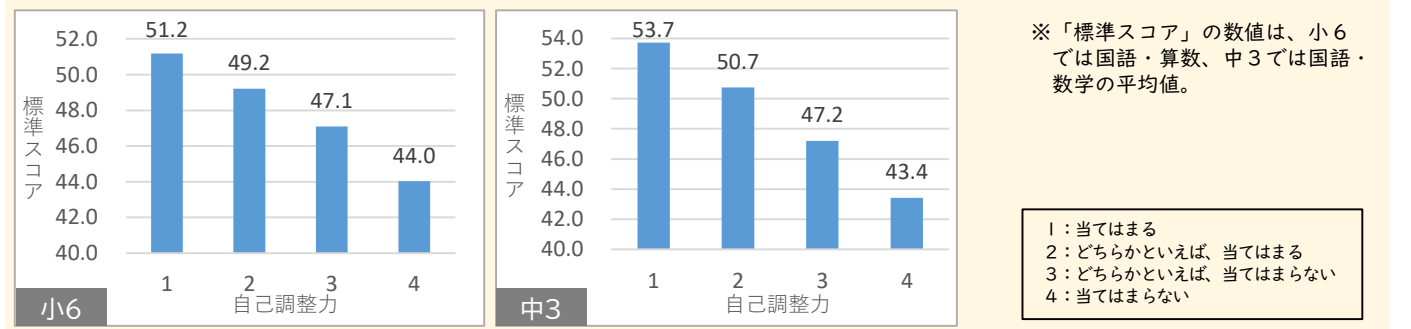
- ⑤ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた（主体的な学び）
- ⑥ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている（自己調整力）

《⑤・⑥肯定的回答割合〔単位：％〕》

		小 6		中 3	
		主体的な学び	自己調整力	主体的な学び	自己調整力
R 7	岡山県	77.8	78.1	76.7	72.7
	全国	80.3	79.4	77.7	73.4

▲小学校、中学校ともに「主体的な学び・自己調整力」の肯定的回答割合は、全国より低い。

⑥「自己調整力」と「標準スコア」のクロス分析



(4) ICT機器の活用

- ⑦ 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。

		小 6			中 3		
		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～月1回未満
R 7	岡山県	57.1	23.4	19.5	57.4	24.9	17.1
	全国	46.7	25.0	28.3	53.2	23.3	23.0

○「ほぼ毎日」と回答した割合は、小学校と中学校ともに全国より高い。

4 中学校3年 理科 (CBT実施) の学力調査の結果

○IRTとは・・・？

＊生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度等)によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論。
→ 異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさしで比較できる。

個人の成績の表示方法

IRTに基づく調査では、各問題の難易度等を用いて、IRTの数式により受検者の能力値を推定する。能力値は、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。IRTスコアは、推定された能力値を分かりやすく示すものである。

Aさん

問1 ★
問2 ★★
問3 ★★★
問4 ★★★★
3問正解

Bさん

問1 ★
問3 ★★★
問4 ★★★★
問5 ★★★★★
2問正解

問1 ★ 問2 ★★ 問3 ★★★ 問4 ★★★★ 問5 ★★★★★

易 ← 問題の難易度 → 難

← IRTスコア →

1 2 3 4 5

Aさん 3 Bさん

※ ★が多いほど問題のレベル(難易度等)が高いことを示す。

○ 問題の構成

公開問題 10問(全日程共通問題6問、実施日により異なる問題4問)
非公開問題16問(生徒毎に異なる問題)

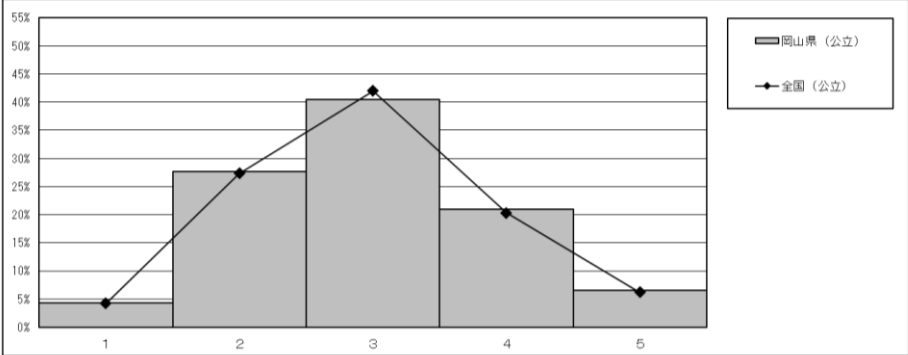
合計26問

(1) IRTスコア集計値

	平均IRTスコア
岡山県	495 ～ 504
全国	503

○IRTスコアは全国と同等である。

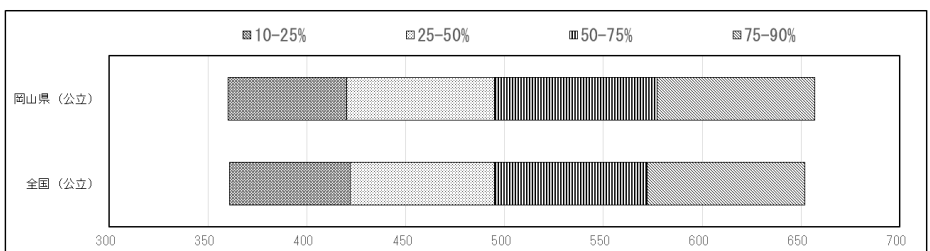
(2) IRTバンド分布グラフ



(3) IRTバンド集計値

IRTバンド	割合(%)	
	岡山県	全国
5	6.5	6.2
4	21.0	20.3
3	40.5	42.0
2	27.7	27.3
1	4.3	4.2

(4) IRTスコア分布グラフ



○IRTスコア等の分布は全国と同等である。

今後の取組

※ 岡山市を除く市町村の公立小・中学校及び義務教育学校、県立中学校等を対象としている。

昨年度の岡山県の課題

- 1 「実践的な研修を行っていない」と自己評価している学校もあるため、校内研修の充実に向けた継続的な支援の実施が必要である。
- 2 小学校算数における正答率40%以下の割合は依然として全国値より高い。
- 3 中学校は、授業時間以外での「学習1時間以上の割合」及び自己調整力に関わる質問項目において、全国値より低い。

現状

- 1 「実践的な研修を行っていますか」という質問について、「よくしている」と回答した学校は、小、中学校ともに年々増加している（○）。
- 2 どの設問においても、無解答率は全国値より低く、基本的な計算や表の読み取り等の設問では改善が見られた（○）ものの、正答率40%以下の割合は依然として全国値より高い（▲）。
- 3 依然として全国値より低い（▲）。

今年度の調査結果から分かったこと

＜児童生徒質問調査結果から＞

- 算数に関する「好きですか」「内容がよく分かりますか」「学習したことは、将来、社会に出るときに役に立つと思いますか」という質問について、いずれも「当てはまる」と回答した児童の割合は減少している（▲）。
- 「5年生まで（1、2年生の時）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問について、小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学において、使用頻度と平均正答率に正の相関が見られた。

＜学校質問調査結果から＞

- 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」という質問について、肯定的回答をした学校の割合は全国値より高い（○）。

今年度の県教委の取組

岡山県における継続的な課題の解決に向け、ターゲットを明確にした取組を推進する。

【重点取組①】 小学校算数における正答率40%以下の割合の減少

- 小学校算数の授業改善に向けた指導資料を作成し、管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問等あらゆる機会を通じて、県内（岡山市を除く。）の公立小学校に対して指導助言を行う。
- 「主体的な学びの基盤づくり事業」により、支援員等を配置し、各学校が実施する補充的な学習指導を支援する。
- 集団から個へと階層的なアプローチによるつまずき解消を目的とした「多層的支援システム構築事業」の研究指定校において一定の成果が見られることから、その実践を県内に周知する。
- 1人1台端末を活用し、児童生徒の学力の定着状況やつまずきを教員が把握し、個に応じた指導に生かすことができる問題を配信する。

【重点取組②】 生徒の家庭学習時間の確保と主体的に家庭学習に取り組む仕掛け

- 各教科において、児童生徒が学ぶ目的を明確にして意欲的に学習に取り組めるよう課題解決型学習（PBL）を推進し、学ぶ力の育成を行う。
- 授業改革推進チームを核として作成した資料等を活用するなどして、家庭学習の推進を図る考え方等を県内に周知する。
- 「生成AIを活用した学びのサイクル実証事業」における取組について、学校の学びと家庭での学びを連動させ、情報活用能力及び自己調整力を向上させる好事例を収集し、県内に紹介する。

その他の取組

- 管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問や各種研修等を通して、学校経営力と教員の授業力の向上を図る。
- 学習者用デジタル教科書を含めたICT機器も活用しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを促進する。